

特集

① 津波被災地の姿と課題

井上博夫 (岩手大学人文社会科学部教授)

1. 岩手県沿岸津波被災地の概要

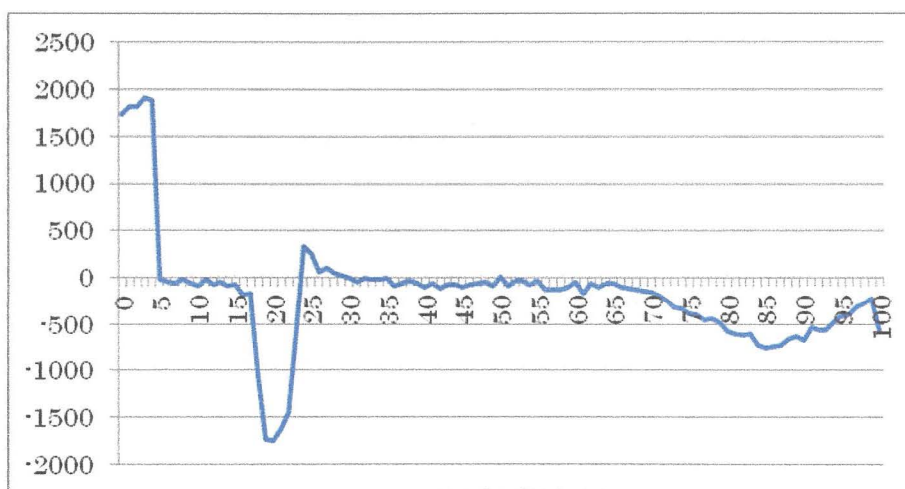
(1) 被害状況

岩手県沿岸部は、南の陸前高田市から北の洋野町まで、5市7町村からなる。東日本大震災の被害はこの地域に集中し、なかでも大槌町、陸前高田市では、人口の約1割が死亡又は行方不明となった。さらに、地域での生活を支える医療・福祉施設も大きな被害を被った。この岩手県沿岸部が、被災前にどのような特徴のある地域で、どのような問題を抱えていたのか、そしてそれが津波被害によってどのような影響を受けたかを見る。

(2) 人口減少と超高齢化の進行

この10年間の減少率は10%を超え、65歳以上人口も30%を

図1 年齢別人口移動の状況



注) 横軸は、2 平成 22 年国勢調査時点の年齢。縦軸は、各年齢グループが平成 17 年国勢調査以降の 5 年間に沿岸地域から移動 (純増減) した人数を表している。

(出所) 平成 22 年国勢調査、平成 17 年国勢調査より作成。

上回る超高齢化地域である。さらに、市町村の財政力も

弱く、自前歳入でまかなえる比率を示す財政力指数は 0.14〜0.51 であり、震災からの復興の困難性を示している。

人口減少がどのようにして生じているか (図 1)。横軸は平成 22 年国勢調査時の年齢、縦軸の数値はこの各年齢グループが平成 17 年からの 5 年間に沿岸 12 市町村から移動 (純増減) した人数である。

18 歳〜23 歳で大きくマイナスとなっているのは、これらの年齢の人々が 5 年間に大量流出したことを示している。最も大きな減少率となった 19 歳 (14 歳〜18 歳の 5 年間) には、このグループの実に 58% が域外に純流出した。20 歳代半ばに U ターンがわずかに見られるが人口流出をとどめるには足りない。しかし、その後は増減がなくなり安定している。

つまり、継続的な人口減少は、高校卒業時に希望に合う進学・就職先が少ないため域外に出て行く若者が多いためである。ただ 20 歳代に地域に残った人々は、その後もずっとここに住み続けることを選んでいる。

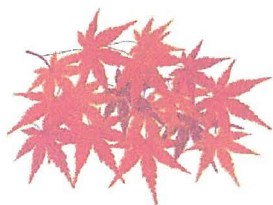


表 1 産業別就業構造 (2005 年, 就業者に占める比率%)

	第1次 産業	農業	林業	漁業	第2次 産業	鉱業	建設 業	製造 業	第3次 産業	運輸 業	卸 売・ 小・ 売 業	飲 食 店、 宿 泊 業	医 療、 福 祉	教 育、 学 習 支 援 業	公 務	そ 他	分類 不 能
陸前高田市	16.4	8.8	0.5	7.0	31.7	0.2	12.5	19.1	51.9	3.7	15.2	3.4	8.8	4.3	2.7	13.9	0.0
大船渡市	11.5	3.8	0.2	7.5	29.5	0.4	11.0	18.1	58.9	4.4	17.2	3.8	8.7	4.7	4.1	16.0	0.1
釜石市	8.4	2.1	0.2	6.1	30.3	0.1	9.5	20.7	61.1	4.2	17.2	4.4	10.0	4.0	4.4	17.0	0.2
大槌町	9.0	3.3	0.2	5.5	37.1	0.4	12.5	24.1	53.6	4.6	16.0	4.3	7.8	3.1	4.2	13.7	0.3
山田町	20.4	4.6	0.9	14.8	29.3	0.2	10.2	18.9	50.2	3.7	13.9	3.1	8.6	2.8	5.1	13.0	0.1
宮古市	10.6	4.3	0.6	5.7	25.2	0.2	8.4	16.6	64.0	4.6	18.5	5.2	11.2	4.7	4.6	15.2	0.2

(3) 地域の経済と仕事
この地域の人々はどうのよう

(出所) 平成 17 年国勢調査より作成。

な仕事をして暮らしているのかを、特に津波被害の激しかった 6 市町について見てみる (表 1)。

沿岸の主要産業である漁業に従事する人が、どの市町村でも一定の割合を占めている。製造業も 3 割くらいだが、うち食品製造業の割合が 38% もあり、多くが漁業関連であることに注意を要する。また、最も多くの雇用を吸収するのは第 3 次産業で、その重要な部分は、卸小売業・飲食業と医療福祉・公務といった社会サービスだ。

したがって、復旧復興にあたって、漁業の復旧が重要であることは間違いないが、漁業単体の復旧ではなく、水産加工や流通業を含めた産業連関の一体的復旧が不可欠であるとともに、生活を支える社会サービスの復旧が地域の雇用確保にとっても重要だといえる。

2. 復旧復興のために何が必要か

(1) 生活の再建

まず住まいの再建。プレハブ協会への一括発注により地元資源が活

用されない、仮設住宅の住み心地に格差があるといった問題はあったが、避難所から仮設住宅への入居は一応完了した。

当面の問題は仮設のあり方だ。岩手県は、9 月末、各沿岸部の防潮堤の高さを提示した。市町村は、これを参考にまちづくりの具体案策定へとすすむ。住宅地を高台に移転するにせよ、元の場所にまちを再建するにせよ、住民との協議が必要だし、整備事業にも相当の期間が予想される。仮設が長期になることも覚悟し、仮設の生活をできる限り快適にすることが重要だろう。

暑さ寒さ対策、防音、体の不自由な人対策といった住みやすい空間づくりとともに、店舗・ポスト・公共施設などが近くにない、交通の便が悪といった問題への対応が必要だ。

高齢者が暮らせることを基準に住宅、店舗、利便施設、コミュニティ、公共交通を整えた「仮設のまち」をつくるくらいの構えが必要だろう。それは地域の仕事と雇用確保にもつながる。

そのうえで、恒久的な住まいへの移行を支援として、住宅ローン対策、浸水土地の買い取り、土地取得の支援、生活再建支援金制度の拡大等が求められる。

(2) 仕事と収入の確保

当面の生活を支えるため、雇用保険給付期間延長、自治体等による「つなぎ雇用」の弾力的実施をすすめるため、雇用確保のための就業支援が必要だ。とは言え雇用情勢は芳しくない。朝日新聞(9月6日)によれば、被災 3 県(岩手、宮城、福島)の「被災求職者」63,352 人のうち、ハローワークの紹介で就職先が決定した人は、7 月末までで 13,017 人(20.5%)にとどまるという。



先に見たように、卒業後地域にとどまった人はここで暮らし続けることを選んできた。その人々の仕事を早急に再建しなければならぬ。新産業の創出は若者の雇用の場を広げるために重要だが、それはまちづくりを計画する中で知恵を出し合えばいい。まずは、水産業とその関連業、商業等の既存の仕事を仮設でもいいから復旧することだ。そのことが仕事の再建とともに生活基盤を整えることになる。

ところが、民間の事業再建のための支援策は非常に限られている。融資以外の助成は2つだけだ。①中小企業基盤整備機構による仮設店舗・工場の貸与と、②中小企業グループに対する施設・設備の復旧整備補助事業(国が1/2、県が1/4補助)である。ところがこれらの事業がなかなか進んでいない。表2は、岩手県内の仮設店舗・工場等の進捗状況だが、9月2日現在で完成したのは4施設19区画にとどまる。

施設・設備復旧整備補助事業も、採択件数・額が大幅にカットされた。岩手県内応募者51グループ、54

5億円に対し、岩手県に配分された額は79億円。2次補正予算による追加も54億円しかない。

その原因は、公共施設の復旧には財政資金を投入するが、個人や民間事業再生への投入をためらうとともに、財政支援の内容も各省庁の個別補助金のため、被災地の実情に合った迅速な対応を困難にしている点にある。市町村に決定権と財源を付与する新たな支援スキームが求められる。

(3) 社会サービスの再建と医療福祉・教育などの再建

さらに、仕事の再建だけではなく、高齢者や子供たちを支える社会サービスの復旧を急がなければならない。

多くの福祉施設、医療施設が被災した。全壊した岩手県立高田病院、大槌病院、山田病院は、ようやく仮設診療所ができたがベッドはない。県では被災前から医師不足と公立病院赤字を理由に県立病院の縮小再編が進められていた。復興計画でも、「新たなまちづくりと連動し、

人口集積の状況や高齢者等の支援ニーズに対応した保健・医療・福祉施設を整備」と言うのみで病院の再建に触れていない。他方、「遠隔医療」の導入を唱っており、この機会に病院の廃止・統合をすすめるおそれもある。

例えば気仙医療圏には、県立大船渡、高田、住田の3病院があったが、住田病院は、2008年4月診療所化、2009年4月には無床診療所化された。今回の震災で高田病院が仮設診療所(無床)となった今、気仙医療圏に、一般病床のある病院は大船渡病院しかなく、ここで入院機能、一次救急から三次救急まですべて担わざるをえなくなっている。医師達も「早く医療を再建し、人がここに住み続けたい」と思えるようにしたい」と奮闘している。県は、県立病院の再建を早急に進め、安心して暮らし続けられる地域復興の先頭に立つ決意を示すべきだろう。

ハードの公共施設は復旧したが、生活の復旧は進まなかったという状況を作ってはならない。

表2 岩手県内の仮設店舗・工場等の進捗状況(2011年9月2日現在)

事業開始			うち建設中			うち完成		
施設数	区画数	延床面積 ^{m²}	施設数	区画数	延床面積 ^{m²}	施設数	区画数	延床面積 ^{m²}
57	241	21,630	11	76	4,860	4	19	970

(出所) 独立行政法人中小企業基盤整備機構資料より作成